

第40回 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会 (当番校:宇都宮大学)

[一般案内]

全国国立大学生涯学習系センター研究協議会（事務局：香川大学）は、生涯学習や大学開放についての研究と教育及び実践を行う国立大学によって構成される団体です。このたび、第40回年次大会を宇都宮大学で開催するにあたり、その一部を、市民の皆さんに公開する形で実施いたします。興味・関心のある方は、ふるってご参加ください。

なお、当日いらした方には、本研究協議会や大学生涯学習の歴史及び資料などをまとめた『40年のあゆみ』を贈呈いたします。

主題： 大学生涯学習の“これまで”と“これから” －温故知新からの未来創造－

今回の研究協議会は、1979(昭和54)年6月に第1回が開催されてから40回目という節目に当たります。そこで、その頃からの約40年間の歴史を調べ直したり考えたりした成果を踏まえて、様々な角度の意見を入れながら、大学が生涯学習振興にどのように関わっていくべきか、生涯学習系センターがどのような役割を果たしていけるかなどの未来展望を探っていきます。

会場： 宇都宮大学 峰キャンパス（栃木県宇都宮市 峰町 350）

峰ヶ丘講堂（登録有形文化財）

日程： 2018(平成30)年 9月18日(火) …オープン・プログラムのみ

9月18日(火) 研究フォーラム（オープン・プログラムのみ）

時間帯	内容等	会場
12:30-13:00	受付（一般受付、会員校第二次受付）	峰ヶ丘講堂
13:00-13:20	開会行事	
13:20-13:40	事業実施報告「協議会40年のあゆみ」	
13:40-14:40	基調講演「生涯学習キーワード40年」	
15:00-16:30	フォーラム「リカレント型社会」	

※ 峰キャンパス「UUプラザ 2階 コミュニティフロア」にて、18:15～20:15の予定で、第40回国立大学生涯学習系センター研究協議会記念懇親会を行います。会費は、5000円です。参加希望の方は、お申し込みください。

◇ プログラム（オープン分のみ）

◎ 開会行事

進 行 開会の辞、開会挨拶、来賓挨拶、開催校挨拶
日 時 9月18日(火) 13:00-13:20 (20分)
会 場 峰ヶ丘講堂

◎ 事業実施報告

テーマ 国立大学生涯学習系センター研究協議会の「40年のあゆみ」
報告者 山本 珠美（香川大学 生涯学習教育研究センター 准教授）
ねらい 本協議会は、前身の「大学教育開放センター研究協議会」・「大学教育開放センター等研究協議会」の時代も含め、数え年で40歳を迎えました。このたび、第40回大会という節目の記念事業として、編集委員会を構成し、2018年度の動きも含め「40年のあゆみ」を作成・発行します。その実施成果や課題などについて、報告いたします。
日 時 9月18日(火) 13:20-13:40 (20分)
会 場 峰ヶ丘講堂

◎ 基調講演

演 題 生涯学習キーワードの40年史
－専門誌編集者が語る生涯学習振興施策・事業の流行と栄枯盛衰－
講 師 近藤 真司（日本青年館 公益事業部『社会教育』編集長）
ねらい 40年前は、「生涯学習」という言葉はもちろん、「生涯教育」という言葉すら、あまり普及していませんでした。しかしながら、静岡県掛川市が「生涯学習即まちづくり」の理念を掲げて「生涯学習都市宣言」を行ったのは1979(昭和54)年4月のことであり、国よりも早く「生涯学習」という日本語を公式文書で前面に打ち出していました。1980年代は、1981(昭和56)年に中央教育審議会答申「生涯教育について」が出された後、臨時教育審議会が「生涯学習体系への移行」を提言し、1988(昭和63)年に文部省に「生涯学習局」が発足し筆頭局となるなど、国の「生涯学習振興」に対する意識が高まりました。また、1990年代、2000年代、2010年代を振り返れば、「リカレント教育」、「生涯学習ボランティア」、「生涯学習まちづくり」、「学び直し」など、様々なキーワードが浮かんでは消えたり再浮上したりしています。そこで、専門誌『社会教育』の編集に長く携わり、業界の変化をまさに肌身で実感してきた近藤真司氏によるキーワードの回顧と整理を手がかりにして、大学生涯学習の未来像を探っていきます。
日 時 9月18日(火) 13:40-14:40 (60分)
会 場 峰ヶ丘講堂

・・・・・・・・・・休憩 (20分)・・・・・・・・・・

◎ フォーラム

タイトル 「リカレント型社会」の創造に向けて

－地域住民の「学習と活躍」の循環基点としての大学の可能性－

パネリスト

平野 紀子 (栃木県教育委員会 生涯学習課 主幹)

「とちぎ子どもの未来創造大学」の成果と課題

高橋 俊守 (宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授)

「鳥獣管理士養成講座」の経験と意義

和久井 隆 (宇都宮大学認定 食農ファシリテーター)

「履修証明制度」の意義と活躍可能性

柏木 聖子 ((株)クローバー 教育事業部部長)

「講師たること」と「講座受講生たること」

コーディネーター 佐々木 英和 (宇都宮大学 地域創生推進機構 教授)

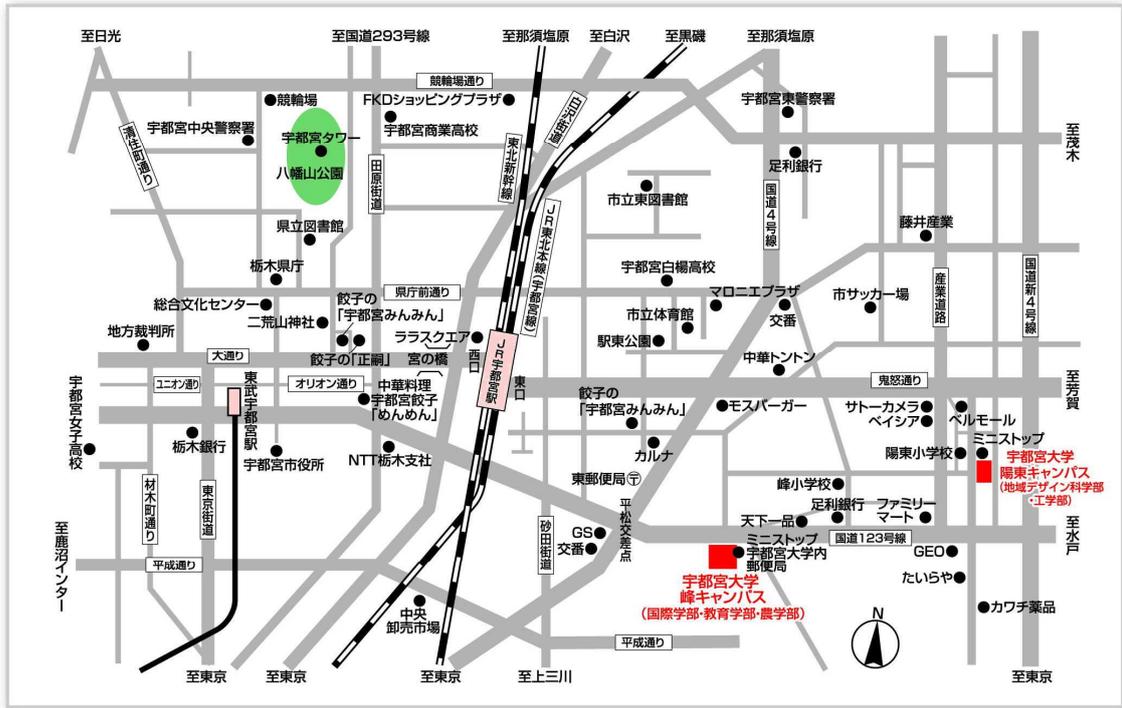
ねらい 2018(平成30)年6月に閣議決定された第3期教育振興基本計画で明示されている「生涯学び、活躍できる環境を整える」という基本方針からは、「学習したことを生かして活躍する」、「活躍し続けるためにこそ学習し直す」という形で「学習と活躍」の循環的關係を生成し続けることが、「生涯学習社会」の在り方として目指されるべき理想であることが読み取れます。また、最近になって頓に言われ始めた「人生100年時代」という流行語ともあいまって、長い人生における「教育の受け方」が、「フロントエンドモデル」すなわち「人生の最初で終わり」というものから、働き始めてからも何回でも繰り返し受け直そうとする「リカレントモデル」に移行しつつあります。そして、「循環」とか「再帰」という意味合いを持つ「リカレント」を特質とする社会では、個々人の人生において教育享受と就労とが循環的に促されていくだけでなく、「子どもと大人」や「学校と地域社会」など、これまでは分断されがちな關係にあった社会的諸要素が混ざり合っていくという成果も発揮されています。本フォーラムでは、これらの実践に相当する具体的事例を参照しながら、「リカレント型社会」を創造する上で、大学が、国民や地域住民にとって効果的な生涯学習機関になりうる可能性を意識し、その方法や課題を探っていきます。

日時 9月18日(火) 15:00-16:30 (90分)

会場 峰ヶ丘講堂

問	国立大学法人 宇都宮大学
い	企画広報部 企画広報課 地域連携係
合	〒321-8505 宇都宮市峰町 350
わ	TEL : 028-649-5007
せ	FAX : 028-649-5026
先	E-mail: renkei2@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

★ 宇都宮大学・峰キャンパス付近の地図



★ 宇都宮大学・峰キャンパスの構内地図

